



じやま

R7.10.30(木):文責 校長

◆児童心理学から考える◆

◆11月のある会で、「年長から小学校への移行期」というテーマで、話をさせていただくことになっています。梶山小の保護者の皆様にもその情報を提供させていただきたいと思い、その会で話をする9の内容について、簡略ではありますか掲載させていただきます。

私が思いますに、人生の中で、人として大きく成長する節目の時は何回もあると思いますが、「年長から小学校への移行期」は、とても大きな節目のように思います。

本当は、しっかり時間をかけて保護者の皆様にもお伝えしたいところですが、以下の文面をお読みになって、児童心理学の側面からも、わが子の今を考えていただければと思います。

もし、ご不明な点がありましたら、直接連絡いただければお答えしたいと思います。

「年長から小学校」への移行期 はじめに

「年長から小学校低学年」への移行期は、子どもの心と体に重要な変化が起こる時期

►新しい能力を次々と獲得し、親や教師も戸惑うほどの変化

【参考文献等】

- ・井上哲男教授の論文(西南学院大学)
- ・文部科学省HP
- ・梶山小教職員からの情報
- ・ブログ:はてなブログ(baymax3300)



①身体的発達

◆身長・体重の増加ペース

個人差はあるが、この時期から思春期にかけて、6年間で約30cmも身長が伸びる児童も

◆運動能力の向上

運動能力が発達し、走る・跳ぶ・投げるなどの動作がよりできてくる。特に手先の器用さが増し、鉛筆や箸をうまく使えるようになる。

②認知発達

◆相手の気持ちが理解できる

自己中心性が徐々に薄れ、他者の視点に立って考えられるようになる。

*自己中心的な思考から、完全に脱却するわけではない。

◆記憶力の向上

短期記憶の容量が増え、学習した内容を覚えておく能力が向上。



*9の内容には、あくまでも個人差があること(より発達する時期等)を承知おきください。



じやま

R7.10.30(木):文責 校長

③社会性

◆友人関係の変化

年長児の「並行遊び」(同じ場所で別々の遊びをする)から、ルールのある集団遊びへと変化。

→「一緒に遊ぶ相手」から「共通の興味や価値観を持つ仲間」へ

◆言葉によるコミュニケーションの発達

「おもちゃを取られて相手を押した」など身体的な反応⇒言葉で自分の気持ちを表現

④こころ

◆感情の理解が深まる

基本的な感情(喜び、悲しみ、怒り、恐れなど)だけでなく、より複雑な感情(誇り、恥ずかしさ、嫉妬など)も理解できる。

◆感情を抑える力の向上

衝動的な感情表現が減り、場面に応じて感情を調整

…まだ完全にはコントロールできない(疲れや空腹時など)



⑤言語能力

◆語彙の増加: 小学校低学年の子どもは1日に平均して5~10個の新しい単語を習得すると言われている。

◆読み書き能力の獲得: ひらがな、カタカナ、漢字の読み書きを習得し、文字による表現の世界が広がる。

⑥学習への姿勢

◆内発的動機づけの重要性

「知りたい」「できるようになりたい」という内発的な動機 > 「勉強しなければならない」という外発的な動機

◆挫折体験

初めてのことができるようになる喜びを数多く経験する一方で、
「できない」という挫折も経験



*私も、島野浦小という島の小学校で1年生をもったことがあります、「1年生の子供たちの1年間の成長はすごいなあ。」と実感しました。ここ梶山小でもこの3年間、1年生の成長のすごさを感じています。

はじめにでも記載しましたが、小学校への移行期は、「新しい能力」が次々と備わってくる時期なのだろうと思います。日本的小学校においては授業という形を中心として、たくさんの「新しい能力」が備わってくるのではないかと思っています。



じやま

R7.10.30(木):文責 校長



⑦自立心と依存心のバランス

◆基本的生活習慣の自立

身の回りのことを自分でできるようになりたいという気持ち

→着替え、食事、整理整頓など。

◆依存と自立

A:新しい環境では不安を感じ、親や教師に依存したい！

B:自分でやりたい！

→この両面性を理解し、サポートする姿勢が大切



⑧親子関係の変化

◆親からの心理的分離

学校という新しいコミュニティが加わり、家庭外での経験や人間関係が増える。

◆モデルとしての親の役割

親の言動を観察し、価値観や行動様式を吸収

→同性の親を模倣する傾向があり、ふるまいや言葉遣いがそのまま子どもに反映されることもある。



⑨学校と家庭の連携

◆情報共有の重要性

学校と家庭で定期的に情報を共有することが大切

→連絡帳や個人面談、保護者会などの機会を積極的に活用

◆生活習慣の一貫性

基本的な生活習慣(早寝早起き朝ごはん、食事、睡眠、整理整頓など)は、学校と家庭で一貫した指導が効果的

まとめ

◆小学1年生は、子どもの発達にとって非常に重要な時期

身体面、認知発達面、社会面、情緒面の発達などが大きく成長

→一人一人の子どもが、「自分らしく健やかに成長」できるよう、家庭と学校が連携しながら支援していきましょう！

*いかがだったでしょうか？！

繰り返しになりますが、家庭と学校の両輪がうまく機能してこそ、

子供の「自分らしい健やかに成長」につながるのだと思っています。

子供さんことで、お困りのことや相談したいことがありますら、

いつでも相談していただきたいと思います。引き続き、よろしくお願ひします。

